



であなたの手元に届くwebマガジン

おばこ稲作情報



2025年4月
No. 6 3
JA秋田おばこ



4/19~5/18

気温

高い 見込み



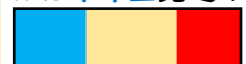
降水量

ほぼ平年並見込み



日照時間

ほぼ平年並見込み



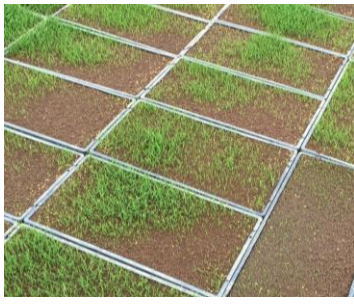
暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高く、特に期間のはじめはかなり高くなる見込みです。東北日本海側では、天気は数日の周期で変わるのでしょ

苗を焼かないために

ここ最近、最高気温は平年並みから高く推移していますが、曇雨天が続いているため、体感としては肌寒いような気がします。

温度が上がらないときは保温に努めることが定石ですが、こんな年は高温障害（苗焼け）が多くなりやすいです。ので、警戒をしてください。

不揃いとなりやすく、後に立ち枯れ苗になりやすくなったりします。



苗焼け症状

ポイントは30度



35度を超えると高温障害が発生しますが、どの部分の温度のことかというところ、種籾がある床土温度のことです。このため、温度計を床土部分に差し込むか、育苗箱近くの地際に設置して温度を確認しましょう。

35度に近づくと、ハウス開放をして温度上昇を防ぎます。この時の目安となる温度は30度です。30度に近づいてきたら早めにハウスを開放しましょう。過保護にすると伸びやすく、軟弱苗になります。



温度計は苗のために

稚苗

出芽長
1cm程度のとき

中苗

出芽長
0.5cm程度のとき



被覆シートを外すタイミングが遅れたため、焼いてしまう事例もあります。また、遅くなると腰高な苗になりやすく、ヒョロヒョロと弱い苗となってしまう。稚苗では、白い芽が1センチ程度に伸びたタイミングで外します。中苗では、白い芽が0.5センチ程度に伸びたタイミングで外します。

また、播種した種籾の7〜8割くらいが出芽した状態になったら外します。全ての種籾が出芽するのを待っていたら、伸びすぎになってしまい、ちよいと、早めのタイミングを意識してください。

被覆シートを外すタイミング

高温障害（苗焼け）とは

種籾や芽が高温によって枯死したり生育障害がでたりします。出芽期に被害に遭いやすく、重症の場合は枯死。軽傷の場合でも、発芽

焼けると

発芽しない
出芽した芽が異常抽出臭いがする（腐敗臭、酸っぱい臭い）



被覆シートの特徴を理解して 防ごう苗焼け

被覆シートの違いによっても苗焼けの程度が変わります。自身のシートの特徴を理解して管理をしてください。

	反射シート系	白スポンジ系
外観	シルバー系、キラキラしている。	白っぽい、ゴワゴワしている。
得意な天候	高温、多照	低温、少照
不得意な天候	曇雨天時など低温傾向の場合は床土温度が上がりにくい。 夜間保温に努める（日中はシートを外し温度を上げる）。	好天が続く場合は反射シートに比べ床土温度が急激に上がりやすい。 床土温度を30℃以上にしないように管理する。
出やすい障害	苗立枯れ病	高温障害（焼け苗）、もみ枯れ細菌病
留意点 （苗焼け対策）	裏表があるものがあります。被覆時に要確認。 	保温効果が高いため、長時間高温になりやすい。→ハウス開放し温度を上げすぎない。 

緑化を開始してからおおよそ2〜3日程度で終えます。白い芽が緑色になり、1葉が開いた頃が緑化終了の目安となります。

緑化終了の目安

ラブリシートはある程度の光を通すので、緑化時に使用します。ただ、通気性があり、水も通すので、保温、保湿効果はありません。ただし、ラブリシートの上からのかん水は撒きムラになりやすいです。ひと手間ですが、かん水時はラブリシートを外して行いましょう。

ラブリシート（寒冷紗）

出芽したばかりの白い芽を少しずつ外の環境に慣らす期間です。出芽直後に高温や強い光を浴びると苗が白化してしまい枯死します。無加温出芽で被覆シート除去後、または加温出芽で育苗器から出したあとは、ラブリシート（寒冷紗）で被覆して、直射日光を避けて徐々に緑化させていきます。

緑化とは

薬剤名（農薬成分数）	対象病害	散布時期
タチガレエースM液剤（2）	ピシウム菌、フザリウム菌	出芽後緑化始期
ナエファインフロアブル（1）	ピシウム菌、フザリウム菌、リゾプス菌	緑化期
ビームゾル（1）	苗いもち	播種7日後頃

目安
被覆シートを外した後〜1葉展開期に散布。

苗立ち枯れ病対策の薬剤散布時期は播種時と播種後があります。播種後の散布は薬剤によって違うのでラベルをよく確認して使用しましょう。

緑化期頃の薬剤散布